

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月
鹿児島市（鹿児島県）

I. ポイント

○計画期間;平成19年12月～平成25年3月(5年4月)

1. 概況

いづろ商店街ショッピングモール化事業及び市電軌道敷緑化整備事業が完了するとともに、We Love 天文館協議会などによる各種イベントの実施や中心市街地の定住人口の増加が堅調に推移していることなどから、歩行者通行量は緩やかに増加している。

大河ドラマ「篤姫」対策推進事業や維新ふるさと館のリニューアル事業など、「篤姫」放映を生かした各種観光施策を着実に実施した結果、平成20年1月に設置した篤姫館の入館者数は、当初目標の3倍以上の667千人に達した。また、平成20年度の観光周遊バス「カゴシマシティビュー」の乗車数及び維新ふるさと館の入館者数は、それぞれ前年度比31.2%増、同14.3%増と過去最高を記録するなど、施策の効果が確実に表れている。

一方、近年の経済不況などにより、基本計画の開始年である平成19年の小売業年間商品販売額は減少している。さらに、主要事業である老舗百貨店山形屋の増床計画は延期されたほか、空き店舗率も減少に転じたものの依然として高い状況にある。

こうした中、本年2月に鹿児島中央駅では商業施設が増床され、3月には中央町22番街区市街地再開発事業の完了により新たな商業・業務施設「アエールプラザ」がオープンした。さらに、平成21年5月に営業終了となった三越鹿児島店跡は、地元企業が建物を取得・改修し、新たに商業施設「マルヤガーデンズ」として本年4月に開業予定である。いずれも、中心市街地のにぎわい創出や商業活性化に好影響をもたらすものと期待される。

なお、総事業65事業のうち、20事業が完了、ソフト事業など25事業が実施中、20事業が未完了（うち5事業が未着手）である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	見通し
まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量 (20地点、土日)	125,531 人/日 (H18年)	150,000 人/日 (H24年)	128,635 人/日 (H21年)	③
九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801 千人 (H18年)	8,000 千人 (H24年)	7,341 千人 (H20年)	①
南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421 百万円 (H16年)	210,000 百万円 (H24年)	平成22年度 フォローアップ予定	

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①「歩行者通行量」について

- ・平成 22 年秋に再開の見極めを行うとしている山形屋の増床計画や、シネマコンプレックスを含む文化商業複合施設の整備計画が延期となっていることから、事業の進捗は予定通りであるとは言えない。
- ・しかし、それ以外の事業は概ね予定通り進捗していることから、その効果により歩行者通行量は緩やかに増加している。したがって、延期となっている事業の早期実現を図るとともに、新たに三越鹿児島店跡を改修する商業施設を整備することなどで、目標達成は可能と見込まれる。

②「中心市街地の年間入込観光客数」について

- ・山形屋の増床計画の延期が懸念材料ではあるが、引き続き「篤姫」をはじめとした本市の歴史資源を活かした取組を進めていくとともに、平成 23 年春の九州新幹線の全線開業に向けた各種観光施策が概ね順調に進捗していることを踏まえて、さらに関西・中国地方や東アジアに向け本市観光の魅力を発信する広報宣伝を強化するなど、より一層観光客の増加を図ることで、目標達成は可能と見込まれる。

③「小売業年間商品販売額」について

- ・小売業年間商品販売額については計画開始年の調査結果が把握されたところであるが、この時点では事業が未完了であり、その効果が発現していないことから、今回は評価対象外である。

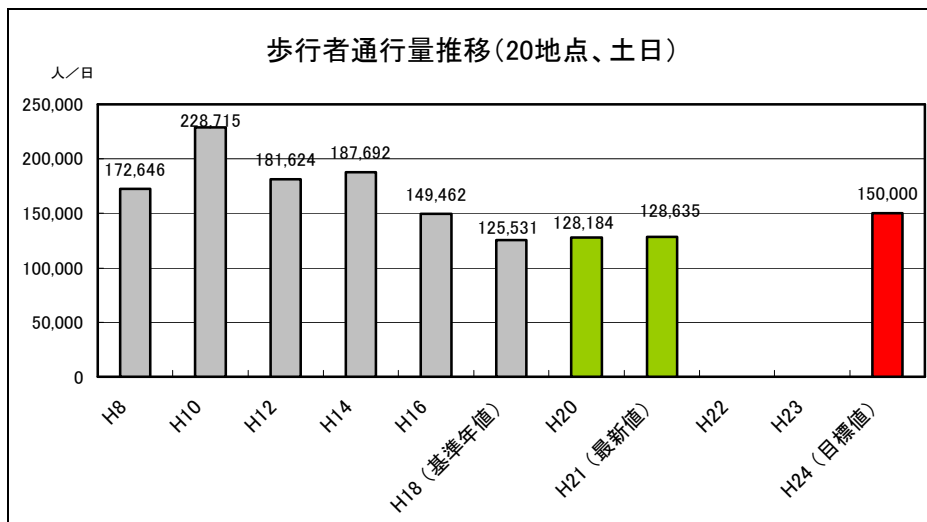
4. 今後の対策

- ・基本計画に掲げる事業を着実かつ円滑に推進するため、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業やシネマコンプレックスを含む文化商業複合施設の整備事業の実現を図る。
- ・「篤姫」放送終了後の反動が予想されるが、九州新幹線の全線開業を見据え、ポスト篤姫として鹿児島の「食」をテーマとした“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業を新たに追加するなど適切なフォローアップを図り、官民一体となって目標の達成を目指す。

II. 目標「まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P40～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	125,531 (基準年値)
H20	128,184
H21	128,635
H22	
H23	
H24	150,000 (目標値)

※調査月；年1回調査(10月)

※調査主体；鹿児島市(歩行者通行量調査)

※調査対象；土・日曜日20地点の歩行者及び軽車両通行者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)(株山形屋)

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	老舗百貨店(山形屋)の増床(16,000㎡)、イベント広場及びプロムナードの整備。
事業効果又は進捗状況	景気後退の底が不透明であり、現在の経済情勢では投資のリターンが見込めないため、事業の実施を延期している。再開は平成22年秋に見極める。

②. (仮称) 親子つどいの広場施設整備事業(鹿児島市)

事業完了時期	【済】平成20年2月
事業概要	子育て中の親とその子どもが気軽に集い、育児相談、子育てに関連する情報交換等を行い、相互に交流できる子育て支援施設(614㎡)の整備。
事業効果又は進捗状況	親子つどいの広場については、計画の見込み利用者数100人/日を超える134人/日が利用しており、歩行者通行量の増加に寄与している。

③. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

事業完了時期	【済】平成21年3月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」のリニューアルや、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	平成21年度の「維新ふるさと館」は、過去最高となった前年度を上回る入館者数（前年度同月累計比5.4%増）となっている。また、まち歩きツアーに2,089人（平成22年1月末）が参加するなど、歩行者通行量の増加に貢献した。

④. 【追加】いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業（株TMD）

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床計画に伴う敷地整序型土地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設（多目的ホール、シネマコンプレックス、商業施設）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成21年9月に基本設計を完成させ、22年3月末までに実施計画を完成させる予定である。建設工事着手時期については、国の補助制度の活用を予定していることから、半年ないしは1年後になると見込まれる。

⑤. 【追加】呉服町6番街区等整備事業（株丸屋本社）

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等（商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年4月の開業に向け、改修工事を行っているところである。年間来店者数300万人、年間売上高70億円を見込む。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

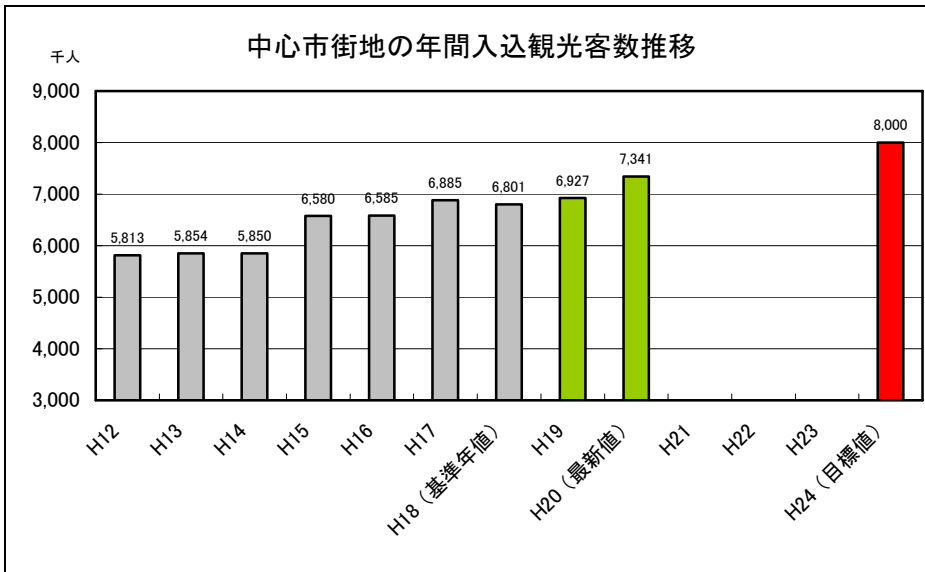
- 基本計画に掲げる事業の進捗状況は一部を除き予定通りであり、いづろ商店街ショッピングモール化事業の完了や、「市電ワンコインの日」など地方の元気再生事業の活用を機に継続して実施したイベント等により、歩行者通行量は緩やかに増加した。
- 延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業や、商工会議所や地元商店街、金融機関が加わり事業計画の見直しを行っている文化商業複合施設（シネマコンプレックス等）の整備事業の実現を図るとともに、新たに三越鹿児島店跡を改修する商業施設を整備することなどで、目標達成は可能と見込まれる。

- 来街者に必要な商店街やイベント情報や、山形屋や近隣商店街においても返却できるベビーカーの無料貸出しサービスなどを提供する「天まちサロン」の開設により、来街者の回遊性や利便性の向上を図る。
- いろろ・天文館地区の回遊空間づくりワークショップを開催し、新たな集客拠点の創出により増加した来街者が快適にまちを回遊できるよう、道路空間の緑化やオープンカフェなどの社会実験を通じて快適な歩行空間の整備を図る。
- このほか、鹿児島中央駅周辺では、駅ビルの商業施設の増床や、1,000室を超えるホテルの増加、高速バスのターミナルの再整備を含む複合ビルの整備など、九州新幹線全線開業に向け、基本計画掲載事業以外の民間事業も活発になっており、中心市街地のにぎわい創出や回遊性の向上に好影響をもたらすものと期待される。

Ⅲ. 目標「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P51 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：千人)
H18	6,801 (基準年値)
H19	6,927
H20	7,341
H21	
H22	
H23	
H24	8,000 (目標値)

※調査月；1月～12月の実績を翌7月に集計

※調査主体；鹿児島市（観光統計）

※調査対象；高速、鉄道、バス、船舶等の各種交通機関利用者及び中心市街地内の宿泊施設利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

【再掲】P4 参照

事業完了時期	【済】平成21年3月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」のリニューアルや、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	「篤姫館」には計画の3倍以上の667千人が訪れ、リニューアル後の「維新ふるさと館」には過去最高となる166千人（前年度比14.3%増）が訪れた。また、まち歩きツアーに2,417人が参加するなど、入込観光客数の増加に貢献した。

②. かがしま水族館 10 周年記念事業（鹿児島市）

事業完了時期	【未】平成 22 年度
事業概要	開館 10 周年を迎えた水族館について、イルカ水路の延長など参加・体験型を重視したシステム導入、施設の改修等を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 20 年度の入館者数は 10 年ぶりに 70 万人を上回った。平成 22 年 2 月にはイルカ水路の延長工事が完了するなど、施設の改修が進められている。

③. （仮称）いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）（株山形屋）

【再掲】P3 参照

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m ² ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
事業効果又は進捗状況	景気後退の底が不透明であり、現在の経済情勢では投資のリターンが見込めないため、事業の実施を延期している。再開は平成 22 年秋に見極める。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・大河ドラマ「篤姫」放映の効果を生かした各種観光施策の実施により、年間入込観光客数は過去最高の 7,341 千人（前年比 414 千人増）となった。
- ・「篤姫」放送終了後の反動が予想されるが、平成 23 年春の九州新幹線全線開業を見据え、甲突川右岸緑地における観光交流センター等の整備など引き続き計画に取り組むとともに、ポスト篤姫として鹿児島の「食」をテーマとした“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業を新たに追加する。
- ・さらに、本市観光の魅力を発信するため、全線開業に向けて県や関係団体と連携し、関西・中国地区や東アジアへの広報宣伝や観光キャンペーンに取り組み、さらなる観光客の誘客を図ることで目標達成は可能と考える。
- ・このほか、80 万人以上の来場者を見込む第 28 回全国都市緑化フェア（平成 23 年 3 月～5 月）の開催や、中国観光客船の受入などの基本計画掲載事業以外の取組もあり、中心市街地の観光客数の増大に好影響をもたらすものと期待される。
- ・全線開業によるマイナスの影響も懸念されるが、九州の縦軸を構成する福岡市、熊本市、鹿児島市では三都市交流連携協定を締結し、共同で関西圏等への観光プロモーションを行うなど、各市域内はもとより九州域の一体的な発展に寄与する取組を実施していく。